

地域・キャンパス・学生・教職員間連携交流活動の報告

北濱 幹士*1

Report of the Collaboration Activities Between Regions, Campuses, Students and Faculties

by

Kanji KITAHAMA*1

(received on Mar. 30, 2019 & accepted on Jul. 26, 2019)

あらまし

多くの大学が社会貢献活動の入口として地域との連携を実施している。東海大学は、2013年度から様々な地域連携活動<平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」採択>を5年に渡り推進してきた。2018年度からは、過去5年間で培った地域との連携・交流をどのように継続・推進していくかが課題の一つでもある。本稿では、2018年12月に実施した東海大学高輪キャンパスと代々木キャンパスにおける地域・キャンパス・学生・教職員を交えた連携交流の活動報告を行う。

Abstract

The purpose of this report is to review collaboration activities between regions, such as Takanawa and Tomigaya 2-chome and Tokai University's Campuses in Takanawa and Yoyogi. This project consisted of two events: "Oyako de Hoiku" and "Christmas party." "Oyako de Hoiku" was a walking event to Tokai University's Yoyogi Campus from Takanawa Campus a distance of almost 7 km. Another event was the "Christmas party" at Yoyogi Campus sponsored by people who live in Tomigaya 2-chome in cooperation with students from Yoyogi Campus.

キーワード: 地域連携交流, キャンパス連携交流, 学生・教職員交流

Keywords: Regional Activity, Campus Activity, Students' Activity

1. はじめに

東海大学は、2013年度から始まった地域連携活動<平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」採択>を5年に渡り推進してきた¹⁾。2018年度以降は、地域連携活動を事業としてではなく、過去5年間で培った様々な地域との連携力をどのように成長させ、継続実施していくのが新たな課題である。

東海大学高輪キャンパスは、港区と連携して「たかなわ子どもカレッジ²⁾」を事業化している。本プロジェクトは、高輪キャンパス周辺在住の児童が放課後の居場所として、高輪キャンパス内に活動場所を持ち、大学の知的・人的資源を活用して児童の自主性、社会性及び創造性を養い、地域交流や多世代間交流を育む事業である。主な事業としては、活動場所の開放（3号館地下1階多目的室）、子ども教育支援教室などである。また、東海大学チャレンジセンター・Takanawa 共育プロジェクト³⁾（以後、TKP）も周辺地域在住の子ども達に向けた各種イベントを開催し、地域連携活動の一端を担っている。

本稿では、様々な地域連携活動の中から、2018年12月16日の日曜日に地域連携事業の一環として実施した「親子 de 歩育」について報告する。なお、本企画

は、たかなわ子どもカレッジ、TKPの共催である。

2. 高輪キャンパスと代々木キャンパス

高輪キャンパスと代々木キャンパスが設置されている東京都圏は、JR、各種私鉄、路線バス、タクシーと交通網が張り巡らされ、非常に便利が良い。しかし、東京メトロの地上入口を探して、地下へ下り、駅構内を移動して改札口・ホーム、地下鉄で最寄りの駅、そして最終目的地へと向かう事は必ずしも時間的に最短での移動とは限らない。むしろ、現在地から直接最終目的地へと移動する方が、時間的に早い場合もある。

今回実施した地域連携交流活動「親子 de 歩育」は、通勤途中の乗換駅である代々木上原駅にて思い付いた企画である。神奈川県ほぼ中央に位置する伊勢原市から勤務先である高輪キャンパスへ向かうには、代々木上原駅で小田急線から東京メトロ千代田線へ乗換える。その千代田線で国会議事堂前駅へ行き、駅構内を徒歩で移動し、南北線にて溜池山王駅から白金高輪駅へ行く。そして、当駅から徒歩8分で高輪キャンパスに到着する。最初の乗換駅である代々木上原駅は、代々木キャンパス最寄りの駅である。その代々木上原駅から白金高輪駅へは、乗換等も含めて約25分（代々木上原～国会議事堂12分、溜池山王～白金高輪7分）を費やす。しかし、地図を確認すると、代々木キャンパスから高輪キャンパ

*1 高輪教養教育センター 准教授
Liberal Arts Education Center, Takanawa Campus,
Associate Professor

ス方向への路線は存在していない。従って、東京メトロを利用した場合、代々木上原駅から東へと進み（国会議事堂駅・溜池山王駅）、それから白金高輪駅へと南へ進んでいる事が見てわかる（Fig.1 参照）。東京メトロを利用した駅と駅における約 25 分の移動時間が、最速のルートである事には間違いはないだろう。しかし、高輪キャンパスと代々木キャンパスの最短距離は 6.3 キロメートルである。6~7 キロメートル程度であれば、公共交通機関を使用せずとも、自然や季節を感じながら徒歩で移動するのも良いのではないだろうかと考え、本企画の立案へと至った。



Fig.1 Takanawa Campus to Yoyogi Campus by Subway route(Green) and Walking route(Red).

2.1 東海大学高輪キャンパス

高輪キャンパスは、JR 線、私鉄 2 線が徒歩圏内にある都市圏でも特に便利な立地条件が備わった場所にある。情報通信学部と情報通信学研究科が設置されており、入学時から卒業時まで同一キャンパスで学ぶことができる。

- 〒108-8619 東京都港区高輪2-3-23
- ・JR・京浜急行「品川駅」下車，高輪口より徒歩約18分（改札より右方向（田町方面）に進み、「高輪2丁目」交差点を左折）。
 - ・JR・京浜急行「品川駅」下車，高輪口より都バス「目黒駅行」に乗り「高輪警察署前」下車，徒歩約3分。東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「白金高輪駅」下車，出口1から左に進み，徒歩約8分。
 - ・都営地下鉄浅草線「泉岳寺駅」下車，A2出口より徒歩約10分。

2.2 東海大学代々木キャンパス

代々木キャンパスは、渋谷区と言う都心にありながら閑静な住宅街の中に設置されている。50 年以上の歴史がある古いキャンパスであり、4 号館上層階から都心部に向けての眺望は素晴らしい。観光学部が設置されている。

- 〒151-8677 東京都渋谷区富ヶ谷区富ヶ谷 2-28-4
- ・小田急線「代々木八幡」駅または「代々木上原」駅下車徒歩10分。
 - ・京王井の頭線「駒場東大前」駅下車徒歩10分。
 - ・地下鉄千代田線「代々木公園」駅下車徒歩10分。

3. 親子 de 歩育とクリスマス会

「親子 de 歩育」は、高輪キャンパスから代々木キャンパスまでを親子で歩く企画である。しかし、代々木キャンパスを目指して歩くだけでは面白みが無く、目的意識も湧かない。そこで、例年代々木キャンパスで開催されている富ヶ谷 2 丁目のクリスマス会への参加を懇願し、自治会及び担当教員より了承を頂き、クリスマス会当日に実施日を合わせた。

これにより「親子 de 歩育」として代々木キャンパスを目指す目的が明確になると共に、クリスマス会に参加・協力する事で代々木キャンパス周辺の地域住民、学生、教職員との交流も期待できるようになった。

3.1 親子 de 歩育

本企画の参加者を募る前に、子どもカレッジの担当者 2 名と下見を行った。下見時に計測したデータによると、所要歩数は 9858 歩、総距離は歩幅より推測される 8.16 キロメートル¹、所要時間は 105 分であった。

下見を経て明確になった事は、距離・時間と共に予測以上だったことである。また、当日は団体での移動を踏まえると、トイレ休憩、道路事情や信号による一旦停止など予期せぬ時間が必要である事が推測できた。街の雰囲気を感じながら歩くことを目的の 1 つとして考えていたため、裏道ではなく、大通りを進む事とした。大通りは、歩道幅が広く危険度が低いように感じた。また、各種店舗、大使館、そして公園などがあり、トイレや急な体調不良にも即時対応可能と判断した。

下見での見地を基に次の経路を歩く事とした（Fig.1 参照）。①高輪キャンパス出発後、312 号線から白金台駅側から北上し、首都高速 2 号線の下を抜けて恵比寿方面。②恵比寿駅周辺の地下街を進み、恵比寿ガーデンプレイスひろばにて休憩。③山手線と並行して北上し、416 号線から代官山交番前より 317 号線（左右に大使館や記念館が立ち並び見て歩くのが楽しいエリア）。④西郷山公園でトイレ休憩をし、更に北上。⑤423 号線を西方に進み、東京都立駒場高等学校付近から駒場東大前駅。⑥駒場東大前駅から東京大学駒場キャンパス内。⑦駒場キャンパス内を見学しながら駅とは反対側の通用門からキャンパスの外。⑧道路を横断し、2 ブロック北側が代々木キャンパスである。

当初は、「代々木キャンパスまで歩いてクリスマス会に参加しよう」の企画であったが、下見をしながら、この様な素晴らしい街並みだからこそ親子で歩くべきではないだろうかとの結論に至った。また、大人も公共交通機関を利用する事が多く、都内在住であったとしても、高輪から代々木まで歩くことは無いだろうと意見が一致した。そこで、「親子」で

+1 歩幅の目安として身長×0.45 を採用（184cm×0.45）

の参加を原則として、親子 10 組を募集した⁺²。

当日の参加者は、たかなわ子どもカレッジから参加して頂いた N ちゃん親子（小学校 1 年生の女兒と父親）、子どもカレッジ担当者 2 名（郷さん、加藤さん）、TKP より学生 3 名、そして今後の企画助言等を含めて、東海大学情報教育センターの宮川准教授に参加を依頼し、総勢 9 名で実施した (Fig. 2 参照)。また、クリスマス会のみ参加希望の TKP 所属の学生は直接代々木キャンパスへと向かった。



Fig. 2 Participants of Oyako de Hoiku.

3.2 クリスマス会

富二クリスマス会は、子どもからおじいちゃんおばあちゃんまでみんなで楽しめるクリスマス会をテーマに実施されている地域交流多世代型イベントである。会の主催は、富ヶ谷 2 丁目町会、そして観光学部の遠藤先生及び遠藤ゼミの学生が全面的に協力をし、代々木キャンパス 4 号館 2 階 Y カフェで催されている。プログラムは、餅つき（4 号館ベランダ）、トン汁、クラフト（クリスマス装飾）、ゲーム・クイズ、そして小田急電鉄によるフォトブース等である。TKP の学生は、観光学部の学生と一緒にブースを担当した。

4. 今後の地域連携及びキャンパス連携

4.1 地域連携推進の必要性

先述したように、東海大学では 2013 年度より地域連携テーマとして 4 計画 8 事業を掲げ、地（知）の拠点として地域連携事業を展開してきた⁴⁾。全国に広がる各キャンパス周辺地域との連携は、東海大学の社会的責任として重要な事柄の一つでもある。しかし、この地域連携事業は大学の事業として大学キャンパスにて実施されていた。今後は、大学キャンパスだけに留まらず、学園の各教育機関である短期大学・付属高校・中学校・小学校・幼稚園、そして研究所やセンター、或いは病院等を含めた全ての「東海大学」の周辺地域にて連携・交流が推進されて行くべきだと考える。例えば、東海大学に勤務している事もあり、第 95 回東京箱根間往復大学駅伝競走総合優勝に関する祝いの言葉を多く頂く機会に恵まれ

た。実情としては、本務先とは別キャンパスの学生による結果に過ぎない。しかし、学園外から見ると「東海大学」は 1 つであり、別キャンパスの出来事であろうとも「東海大学」は「東海大学」である。これは付属の教育機関も同様であり、別組織と捉えているのは学園内だけではないだろうか。

昨今、大学への帰属意識が薄いとされ、多くの学生は大学のロゴマーク等が入った物品・アパレル類を身に付けない風潮がある。大学を代表する立場、大学の名称を使用して、或いは大学ロゴマークを背負って地域で実施する連携・交流活動は、改めて大学の存在意義を現場で感じる事ができ、大学への帰属意識向上に繋がると思われる。

4.2 キャンパス連携推進の必要性

湘南キャンパスには多くの学部があり、課外活動等も含め、学部の特異性等も含め文理融合の世界が常日頃から広がっている。しかし、高輪キャンパスで学ぶ情報通信学部生は、1 年次より同一キャンパスで学んでおり、前後の学年は入れ替わるものの、4 年間は同じ学部生である。そして、代々木キャンパスの観光学部生は、1 年次こそ湘南キャンパスだが、2～4 年次は代々木キャンパスで学ぶ。つまり、この 2 キャンパスで学ぶ学生は、同じ様な目的・目標を持って入学し、同等の科目を受講している仲間だけが周辺にいる。総合大学である東海大学のメリットでもある文理融合のチャンスが湘南キャンパスの学生と比較すると極端に少ないのである。特に、高輪キャンパス（理系）と代々木キャンパス（文系）は、学園内でも最寄りのキャンパスでありながら⁺³、キャンパス間連携・交流の機会が多く無かった。勿論、キャンパスにおける諸事情をも踏まえると連携・交流は容易ではない事は理解している。



Fig. 3 Yoyogi & Takanawa Students.

観光学部の特異性でもあるホスピタリティを肌で感じさせられたのは、「親子 de 歩育」のゴール地点である。代々木キャンパスまで安全に完歩する事を念頭に置いていたため、特に到着した時の事は考えていなかった。しかし、高輪から徒歩で行く企画内容を事前に聞いていた学生たちが、代々木キャンパス 4 号館 1 階に赤いゴールテープと「ようこそ代々

⁺² 子どものみの参加も可とした

⁺³ 最も近距離と思われるがちな伊勢原キャンパスと湘南キャンパスは 7.7 キロメートル

木へ」のプラカードを掲げて歓迎してくれた。その光景を見た参加者の N ちゃんの表情は和らぎ、休憩以外はずっと繋いでいた父親の手を離し、ゆっくりとゴールテープに向けて歩き進んだ。学生も口々に「N ちゃん、ようこそ」「よく来たね」「遠かったのに頑張ったね」と声をかけており、おもてなしの心を感じさせてもらった (Fig. 4 参照)。



Fig. 4 Students at Yoyogi Campus with Handmade Signboards.

4.3 地域・キャンパス間連携企画の感想

遠藤先生@代々木キャンパス

今年は高輪からゲストが来る！ということが学生たちの企画モチベーションになり、とてもありがたかったです。明るく楽しく交流もあって、よいクリスマス会になりました。高輪の皆様には感謝いたします。ありがとうございました。

郷さん@たかなわ子どもカレッジ

参加親子は1組でしたが、1年生の女兒は頑張って歩いていたのが印象的でした。代々木キャンパス到着時のゴールテープでの歓迎はとても心が温まりました。

クリスマス会当初は、人見知りして各種制作ブースへの参加をせずに父親の隣に座っていましたが、代々木の子どもの楽しそうな声を聞き、控室から出て、そこから積極的に制作に打ち込み、最後は歌やクイズ、BINGO大会で最前列に座り、隣の子とも会話していた場面がありました。会がすごく楽しめていたようです。

これも先生方をはじめ、TKPの学生さん、代々木の方々のおかげだと感じております。本当に感謝いたします。

宮川先生@情報教育センター

プログラミングを学びたいという学生が、その初級段階から、安全な空間といえる大学教育の枠の中で、他の学生や教職員、地域の方との関わりを持つことができ、かつ、実際に制作したアプリの使い勝手や現場のニーズを知ることができることは、動機づけとしても技術修得方法のひとつとしても、大きな可能性が感じられた。デザインやデータ分析など、プログラミング以外の領域にも援用できるのではないかな。

5. まとめ

東海大学では全国各地のキャンパスと周辺自治体が連携して様々な教育・研究・社会貢献のプロジェクトを実施している。全国各所にキャンパスを有する東海大学ならではの、更なる地域連携活動、また地域やキャンパスを超えた横断型の活動交流も実施可能である。

大学キャンパス単位だけでなく、各種センター・研究所、短期大学、付属高等学校・中学校・小学校そして、幼稚園を含めるとキャンパス周辺地域とは非常に広範囲に及ぶ。キャンパスや学校単位の「点」を「線」で結ぶ事により「面」となり、幅広く多種多様な教育研究のフィールドの根源が誕生する。学生にとっても地域連携・交流だけの枠に留まらず、地域創生の場合、社会の仕組みや地域の諸問題に取り組む場、多世代間交流の場、或いは地域住民から学ぶことも重要な意味を持つと信じている。

各キャンパス、そして教育機関が横の繋がりも意識し、東海大学のメリットを生かした更なる教育活動が繰り広げられることを強く期待すると共に、それらの活動にも積極的に取り組んでいきたい。

6. 謝辞

今回の地域連携交流活動を実施する上で、多くの関係者に協力して頂いた。「親子 de 歩育」では、たかなわ子どもカレッジ、TKP の学生・担当職員、情報教育センターの宮川先生に感謝の念を捧げたい。また、高輪からの来訪者一団を快く受け入れて頂いた富ヶ谷二丁目の皆さま、代々木キャンパスの遠藤先生、そして観光学部観光学科遠藤ゼミの学生の皆さんにも心から感謝申し上げます。

参考文献

- 1) To-Collabo東海大学の地域連携トコラボ>東海大学の連携自治体, <https://coc.u-tokai.ac.jp/linking/> (最終閲覧日 2019年3月22日)
- 2) 「たかなわ子どもカレッジ事業」について, <https://www.city.minato.tokyo.jp/takanawashisetsuuneki/karezzi/documents/03takanawakodomokarezzizigyounituite.pdf> (最終閲覧日 2019年3月22日)
- 3) Takanawa 共育プロジェクト - 東海大学 チャレンジプロジェクト -, http://deka.challe.u-tokai.ac.jp/tkp/each_event/2018/oyako2018.html (最終閲覧日 2019年3月22日)
- 4) 東海大学: 東海大学と地域をつなぐ8つの取り組み, 東海大学地域連携センター, 2018, <http://coc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2018/02/TOKAI-ENGAGEMENT-web-ver..pdf> (最終閲覧日 2019年3月22日)